

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	脳を育てる療育プログラム チャイルド・ブレイン		
○保護者評価実施期間	2024年1月1日		～ 2024年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2024年1月1日		～ 2024年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月31日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・柳沢運動プログラムを用いた運動遊び+静かな活動(フラッシュカード、読み聞かせ)	・運動遊びで体を動かした後に、静かな時間を組み合わせている ・楽しみながら身体を動かす	・運動療育のスキルUP研修 ・大人も楽しく身体を動かす
2	・「ほごしゃプラス」(保護者会)の開催	・年に数回「ほごしゃプラス」を開催したくさんの保護者に参加していただいている	第15回「先輩ママの話を聞こう」 第16回「インクルーシブ防災」 第17回「応急救命講習会」に続く素敵な企画を立て実施していく
3	・季節を感じるができるプログラムを提供(外出、イベント、制作等) ・自立に向けた社会・生活体験	・四季折々の登山、大型バス遠足、調理活動、マクドナルドや外食の注文等、様々な体験を積み重ね社会経験のスキルUPを目指している	・今年も3教室合同のイベント(夏：大型バス遠足 冬：高尾登山)を企画し実施する ・コロナ禍も落ち着いてきたので、今後は更に視野を広げ行動範囲を広げていきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	毎日のタイムスケジュールに入っている「運動遊び」の時間を確保することが難しい	児童の所属学校が多く下校時刻がバラバラな点と、高学年になると登所時間が遅くなり十分な時間の確保が難しい	早めに登所した児童からグループ毎に活動し時間を管理していく
2	児童数が多い日は教室内が手狭になってしまうことがある	・開所当初から教室スペースの狭さは問題としてあった ・建物の増改築等も現状では難しい	・身体を動かすスペースと静かに過ごすスペースを分けている ・近隣の公園や広場での活動を取り入れていく
3	・放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもと活動する機会	・地域の公園や市民センターはよく利用しており、地域の子どもと関わる機会はあるが、交流活動としては行えておらず、交流しているか知らない保護者も多い	・地域のお祭りや行事、いちょう祭り等での出店等で近隣住民や地域の方々との交流を行っている